

鴻巣市全体の傾向

本市の児童の結果は、小学校調査の全ての項目・領域において全国・県平均を上回っています。

国語A(知識)

調査結果は、全国・県平均を 1.2 ~ 2.0 上回っています。特に、「話すこと・聞くこと」は、多くの児童が目標を達成しています。

本市児童の「国語への関心・意欲・態度」は高く、「話す・聞く」能力に優れている反面、「書くこと・読むこと」の達成度があまり高くない傾向にあります。

国語B(活用)

調査結果は、全国平均 50.5、県平均 51.8 に対し、本市平均 53.6 と高い正答率です。

全ての区分、調査項目で平均正答率を上回っておりますが、知識と同様「書く力・読む力」を高めていく必要があります。

算数A(知識)

調査結果は、全国・県平均を 1.2 ~ 1.3 ポイント上回っています。調査項目の中では、「量と測定」の正答率がやや低く、今後の課題として捉えられます。

算数B(活用)

調査結果は、全国平均 51.6、県平均 52.5 に対し、本市平均 54.0 と高い正答率です。

調査項目の中では、「数量関係」「数学的な考え方」の力を高めていくこと、問題に対して、正しく記述していく力を身に付けていくことが必要です。

(国語の学習について)

質問紙調査から

「国語の勉強が好き」と感じ、「国語の勉強は大切」と捉えている児童の割合が高く、国語学習の意義を理解している傾向にあります。また、「授業の内容がよく分かる」と答える割合も高く、自ら進んで学習し国語の学習内容を理解している児童が多い傾向です。

国語の力と関わりの深い「読書」については、ほぼ全国平均値と同様の結果となっています。

(算数の学習について)

本市の児童は、「算数の勉強は大切」と捉えている割合が非常に高く、算数の学習の意義を十分に理解しています。

授業内容の理解度も全国平均値よりも高い傾向ですが、「算数の勉強が好き」の割合は、あまり高くはありません。

子どもたちは、算数の勉強で学んでことを生活の中で、使ったり、色々な方法で粘り強く解決しようとしています。

(国語)

学習指導改善のための今後の方策

資料の内容を理解し目的に応じて、自分の考えを話したり、分かりやすく伝えたりする力は、多くの児童が定着している傾向にありますので、今後も授業の中で意図的かつ相手を意識した「話し方」が高まるよう国語を中心に指導していきます。

「書く」ことについては、課題や目的に応じて、まとまりのある文章を箇条書きにしたり、条件に応じて書き換えたりしながら、分かりやすく表現する力を高める指導の工夫を図っていきます。

(算数)

今後は、今まで以上に算数の楽しさを味わわせ、算数が好きと言える児童が増えていくよう、楽しく分かる授業の工夫・改善に努めていく必要があります。

また、今まで学習してきた基礎的な力を活用し、自分なりに立式したり、立式したわけを説明したりしながら、問題文にあった解決方法を見つけ出し、言葉や数字で表現していく力を育てる授業を展開していきます。